

第52回 市川市工場対抗野球大会運営規則

市川市工場対抗野球大会実行委員会

1. 登録は監督、マネージャー等を含めて25名以内とする。
2. 登録メンバーの変更はチームの最初の試合前迄に大会本部に届け出ること。その後の変更は認めない。
尚、試合中に登録メンバー以外の出場を発見されたときは直ちにその選手を退場させる。応じない場合には、そのチームを敗者とする。
3. 出場チームは試合開始予定時刻30分前にグラウンドに集合し、本部に届け出ること。
4. 主将は所定メンバー表2通を記入もれのないことを確かめ下記のように本部に提出すること。
試合開始予定時刻30分前。
5. 試合開始予定時刻になっても、試合の出来得る状態でないチームは敗者とする。
6. 試合中登録メンバー以外のものは、ベンチに入ることはできない。ベンチに入るものはユニホームを着用しなければならない。但し、代表者、マネージャー、スコアラー各1名として届け出のある者はこの限りでない。登録メンバーは自身の背番号をつけたユニホームを着用しなければならないが、背番号は0番から30番以内とし、女性の出場を認める。
(但し、監督は30番、主将は10番とする。)
7. ベンチは抽選番号の若いチームを一塁側とし先攻と後攻は、トスで決める。
8. 審判員は実行委員が行うものとする。
9. 各クラス共一回戦から決勝戦まで7イニングとする。
10. 選手並びに審判員の健康管理上、試合時間を1時間40分とする。試合時間を過ぎた場合は新しいイニングに入らない。尚、同点の場合は、本規則16項の特別ルールを適用する。
11. 試合中の攻守交替、メンバーの変更並びにファールボールの球審への手渡しは迅速に行うこと。
12. 投手は捕手より捕球後、12秒以内に正対する打者に投球しなければならない。又、野手は乱りに投手に近づき会話をしてはいけない。(遅延防止)
13. 各イニング間の投球練習は4球以内とする。(但し、初回及び投手交替時は7球以内とする)
14. 捕手は危険防止の為、レガース及びヘルメット、プロテクター、ファールカップを、着用する。
15. 打者、次打者及び走者は危険防止の為ヘルメットを着用し、次の打者はネクストバッターサークル内で低い姿勢で待機する。
16. 本大会の延長戦は以下の特別ルールで競技する。
 - ①7イニング終了しないで特別ルールを実施した場合は、延長戦時設けられている特別ルールを摘要する。
 - ②継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。
すなわち、無死満塁の状態にして、1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。勝敗の決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。尚、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は認められる。
17. 本大会において適用するコールドゲームについては次のように定める。
 - ①5回以降7点差以上とする。
 - ②降雨等ゲームの続行を不可能な理由により審判員が試合を打ち切る場合は、両チームとも5回の攻撃を均等に完了するか、又は、先攻チームが5回を終わった得点より後攻チームの4回までの得点が多い時、これをコールドゲームとし、それ以前の場合は再試合とする。再試合は後日実行委員会が決める。
18. 日没2時間前は、新しいゲームに入らない。但し両チームの合意で試合を行うことは出来るが終了については、当日の責任者と担当審判員が協議の上決定する。
19. 審判に対する申し出(アピール)は、監督又は、主将及び当該プレイヤー1名に限る。尚、監督及び主将が不在の場合は、予め代理を定め、試合前にメンバー表に記入の上、当日責任者へ提出すること。

20. 監督またはコーチが、投手のところへいく回数の制限

- (1) 監督またはコーチが、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。

なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。

- (2) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を7イニングスの試合にあっては3度以内とする。ただし、監督またはコーチと共に行った場合は除く。なお、延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングスに1度行ったこととして通告する。
- (3) 監督またはコーチが、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ1度行ったこととする。
- (4) 監督またはコーチが投手のところへ1度行くか、行ったとみなされた場合は、球審は、あと1度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、1度目に知らせなかった場合は、2度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。

ただし、球審が知らせなくても、監督またはコーチが同一イニングに同一投手のところへ2度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代することになる。

21. 試合中紛争を生じた場合は、その試合担当の審判員が全責任をもって処理し、後日の運営に支障なきよう万全の対策をすること。又、紛争のため試合続行が不可能となった場合は、紛争を起こしたチームを敗者とする。
22. 出場選手の状態及び試合中負傷の為、試合を行うのに適当でないと審判員が認めた場合はその選手の出場を禁止する。
23. 本規則に違反したチームは、実行委員会の決定した処置に従う。
24. 本大会は、2009年公認野球規則及び河川敷球場特別ルール等で行う。但し、公認野球規則等の変更があった場合は、各チームに連絡する。